

【研究ノート】

前川國男邸に関する一考察

早 川 典 子*

目 次

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 はじめに | 5 住まい方に関する聞き取り調査 — |
| 2 概要 | 親族・前川事務所所員からの聞き取り |
| 3 品川区上大崎について | (1) 親族から見た自邸を建てる経緯 |
| 4 建築に関する聞き取り調査 | (2) 独身時代の生活の様子 |
| (1) 崎谷小三郎氏が前川國男邸設計を | (3) 事務所時代の様子 |
| 担当するまでの経緯 | (4) 昭和29年以降の自邸での生活の様 |
| (2) 設計にあたって崎谷氏が影響を受 | 子 |
| けたもの | (5) その他の思い出 |
| (3) 前川國男の住まい方についての考 | (6) 部屋の呼び方について |
| え方 | (7) 昭和31年の大規模な増改築につい |
| (4) 施工について | て |
| (5) 建物の造作について | (8) 前川國男邸解体について |
| (6) 増改築について | 6 展示年代設定について |
| | 7 復元工事・内部展示に使用した資料 |
| | 8 おわりに |

キーワード モダニズム ル・コルビュジェ アントニン・レーモンド

1 はじめに

本稿は、東京都江戸東京博物館分館江戸東京たてもの園（以下たてもの園とする）にて公開された復元建造物「前川國男邸」の内部展示のために行った聞き取り調査をまとめたものである。

たてもの園の建造物の収蔵から公開に至るまでに行う調査には、主に建物の設計監理・復元工事のための調査（今回は財団法人文化財建造物保存技術協会に委託）と、建物の内部展示を

* 当館学芸員

行うための調査（たてもの園学芸員が担当）の2種類がある。

建物は竣工ののち、家族構成や生活スタイルに合わせ、住み易いように手を加えられながら使われ続ける。今回は、建物の復元年代をほぼ1955年（昭和30）に設定した。内部の展示も同じである。また、文章中の各部屋の名称は、同じく昭和30年の部屋の呼称で統一した。経過については後で述べる。

本稿の内容が、前川國男邸見学の際の参考資料となり、建物自体や内部展示理解のための一助となることを期待する。

2 概要

前川國男邸は、1942年（昭和17）に竣工した建築家前川國男（敬称略、以下前川とする）の「自邸」である。設計は、株式会社前川國男建築事務所（現：株式会社前川建築設計事務所、以下前川事務所とする）の所員であった崎谷小三郎¹⁾氏が担当している。この担当とは、主にその建物を受け持ち、プランの検討から図面の作成を行う。そして、要所において所長である前川國男の指示を受けつつ施工まで監理する。

昭和17年頃は、戦時体制下であり、建築資材の入手が困難であったり、または使用を制限されている。その上、1939年（昭和14）11月8日の商工省令「木造建物建築統制規則」によって、延床面積100平方メートル以上の住宅の建設が統制されるといった、困難な状況のなかで建てられた住宅である。

前川國男邸については、竣工から解体までの間をいくつかの時期に分けることができる。

まず、1942年（昭和17）の竣工から1945年（昭和20）5月までは、独身であった前川國男が住宅として使用していた（住み込みのお手伝いさんがいた）。

しかし、1945年3月、銀座にあった事務所が空襲によって焼失したため、5月以降、この建物を事務所として使用することにした。また、同年8月19日に前川は結婚したため、夫妻の新居としても使われた。

1954年（昭和29）に新宿区本塩町に「ミドビル」が完成し、事務所は移転したため、前川夫妻の住宅のみの機能に戻った。

また、1961年（昭和31）には、大規模な増改築が行われた。前川國男邸として発表されている写真は、この改修以後に撮影されたものが多い（前川國男邸の雑誌等への正式発表は1961年（昭和31）『建築』6月号が最初らしい）。

1973年（昭和48）に前川國男邸は解体され、軽井沢にあった父の代に建てた別荘に部材として保存された。同じ敷地には、鉄筋コンクリート造による住宅が新築され、晩年までそこに住んだ。

そして、1994年（平成6）7月頃、前川國男邸が部材として軽井沢の別荘に保存されている

ことを知った東京都江戸東京博物館野外収蔵委員である藤森照信氏よりたてもの園の収蔵建造物としてどうかという連絡があった。部材の所有者は、前川の甥である前川紘一氏、悠二氏へと移っていたため、悠二氏に案内され、²⁾ 軽井沢にて部材の調査を行った。

検討の結果、平成6年10月26日の東京都江戸東京博物館野外収蔵委員会において収蔵の推薦がされた。これを受けて、東京都は収蔵を決定し、所有者である前川紘一氏・悠二氏と寄贈書を交わした。

その後、1996年（平成8）から復元工事が開始され、1997年（平成9）1月28日から公開となったのである。

3 品川区上大崎について

前川國男邸の建てられていた品川区上大崎は、JR 目黒駅から少し歩いた所にある閑静な住宅地である。現在は古い住宅はほとんど姿を消してしまったが、駅に程近いにもかかわらず、静かな住宅地であることは変わっていない。

『日本国有鉄道百年史』第2巻（1969年）によると、目黒駅の開業は明治18年である。

このあたりの人口は明治時代には少なかったが、大正から昭和初期にかけて飛躍的に増加した。特に、関東大震災以降の郊外への移住の風潮とともに、私鉄の開通などが住宅地としての発展を促した。1923年（大正12）には、目蒲電鉄が乗り入れ、目黒駅周辺は、商業地としても栄えていた。

前川國男邸の敷地は、当時分譲地として売りに出されていたところを、昭和15年頃までに前川自身が購入した。敷地面積は、149.82坪である。北側を4 M 道路に接し、南側は崖地となっている。

ちなみに、品川区上大崎には、前川より8歳年上の建築家土浦亀城氏の自邸³⁾（1935年竣工）が建っている。両者は歩いて15分程の距離にあり、家族ぐるみの付き合いがあったらしい。前川夫妻と土浦夫妻で一緒にゴルフに行くこともあったという。

1973年（昭和48）に解体された前川國男邸について、現地に建っていた頃の様子を知る人は少なくなってしまったが、現在は東京都指定有形文化財（建造物）に指定されている土浦亀城邸は、当時の姿を見ることができる。

4 建築に関する聞き取り調査

前川國男邸の設計は、前述のとおり崎谷小三郎氏が担当した。崎谷氏は、1912年生まれ、早稲田高等工業の建築科を卒業し、山口文象のもとにいた。彼は1930年（昭和5）12月にフランスから帰国した前川の講演会「 $3 + 3 + 3 = 3 \times 3$ 」に参加して感銘を受けたという。当時、

レーモンド事務所に勤務していた前川の方でも、崎谷氏が佳作に入選したコンペティションの審査員を務め、崎谷氏のことを気に留めていたという縁があった。最初は、前川のコンペの準備といった個人的な仕事を手伝っていたが、前川の紹介で、崎谷氏もレーモンド事務所に勤めることになった。崎谷氏は、2年間レーモンド事務所に勤めたが、前川が独立するにあたり、前川事務所に移った。

崎谷氏のお話には、レーモンド事務所時代のことや、前川事務所設立当初のことをはじめ興味深い情報が多く、本当に楽しい限りであるが、今回は、前川國男邸に関してうかがった話を以下のようにまとめる。

(1) 崎谷小三郎氏が前川國男邸設計を担当するまでの経緯

前川國男邸の設計は初め浜口ミホ氏⁴⁾が担当していた。ミホ氏の案は、南側に居室があり、横長に部屋が並んでいるような設計だった。応接間・寝室・食堂・書斎など用途を区別したプランだったが、前川は気に入らなかった。ミホ氏が書いた図面はパスしなかったので、図面自体は残っていない。

崎谷氏は、1940年（昭和15）に前川事務所が仕事を受け持っていた上海分室から東京に呼び戻された。

昭和16年の初めから崎谷氏は前川國男邸の図面を書きはじめた。前川がなぜミホ氏の案気に入らなかったのかを考え、まず崎谷氏はワンルーム形式を思いついた。崎谷氏の案は、前川の納得するものであった。

大方の図面は、16年中に書き終わっている。昭和16年12月8日からの戦争が始まるころには、主な図面ができていた。昭和17年の秋、崎谷氏は完成を見届けずに出征した。仕上げの少し前で、障子も入っていたが、照明器具が入ったところは見えていない。丸柱のフォルムがもう少し良くなっていた。

崎谷氏は、昭和17年の秋に入隊し、20年の終戦後に戻った。

家具は昭和17年末から、昭和18年の日付で設計されているが、崎谷氏は書いていない。

(2) 設計にあたって崎谷氏が影響を受けたもの

ドイツのシュトゥットガルトにつくられた集合住宅展示場のル・コルビュジエの作品を雑誌で見て、住まいとはどのようなものであるか、感銘を受けた。

また、外観については、上海から帰ってくる途中で立ち寄った伊勢神宮からは大きな影響を受けた。

浜口ミホ氏の担当の途中から、「延床面積100平方メートル」の時代に入ってしまった。この規制が具体的にどの程度まで拘束力のあるものだったのかよくわからない。住宅を新築する申請の手続きの書類等、自分ではつくっていない。完成した後でクレームが付いても嫌なので、設

計に際して100平方メートルはきちんと意識した。⁵⁾

ちなみに、影響を受けた住宅としては、大森から蒲田へ向かう目抜き通りの閑静な住宅街にあった前川事務所設計の「守屋邸」(1936年竣工)、坂倉準三事務所の設計である「等々力飯箸邸」(1941年竣工)など。また、レーモンドの住宅が大好きだったので、彼の影響もうけている。

(3) 前川國男の住まい方についての考え方

崎谷氏が前川の自邸を設計するに当たっても、前川は自分の考えを「こうあるべきだ」と押しつけることはなかったという。これは、自邸だけではなく、ほかのどの仕事についても同じであった。

まず前川は、1936年(昭和11)に本郷の実家を出て、九段の野々宮アパート⁶⁾で生活をはじめている。フランスに2年間住んでいた前川は、西欧風の生活を自分で体験してきているので、野々宮アパートでの生活は、前川にとっての日本的な西欧風の生活について、改めて考える部分が多かったのではないだろうか。

崎谷氏は、西欧での生活の経験がないため、海外の雑誌や書籍などから情報を得ることしかできなかったが、2年間のレーモンド事務所では、日本にしながら、留学しているかのような経験ができて大変貴重だったとのことである。

設計当初、室内は土足の予定だった。前川は車で移動するので靴が汚れない。玄関ホールでコートを脱ぎ、靴は寝室で履き替えるように考えていた。また、当初は夫婦別寝室を考えていたのではないかとのことである。

崎谷氏は、当時からモダニズムの住宅といわれて話題になっていた「土浦亀城邸」にも行ったが、テーブルと椅子が置かれている様子に窮屈な印象を受けたという。彼はまず部屋に置くテーブルと椅子の大きさを考えて、それを使うために必要な部屋の広さを決めていった。

(4) 施工について

前川は、職人と直接話をして指示するタイプだった。前川事務所は全般的にそういう仕事の仕方をした。

施工は、土浦亀城氏のところにも出入りしていた大和田工務店が行った。

屋根ははじめ銅板葺きなども考えていたが、結局は瓦葺きにした。

前川は、てかてかした質感が嫌いだったので、外壁にペンキを塗るのを嫌がった。外壁には柿渋を塗ろうと考え、前川と二人で京都まで柿渋を見に行った。しかし、気に入ったものがなく、関東には職人もいないということで、柿渋は諦めた。⁸⁾

その後、「オイルステイン」という木材の生地を生かす着色材があることを知り、日本ペイント株式会社の研究室に通って、オイルステインを手に入れることができた。オイルステインを塗った後、拭き取った。

建具は大和田工務店の出入りの建具屋がつくってくれた。下谷にある店だったと思う。

ドアの丁番、ノブはあらかじめ買いだめていたものがあつた。これはアメリカ製のものだったと思う。しかし、引き戸のレールは、真鍮製のものが手に入らなかったで、大工に桜の木で作ってもらった。

居間の建具に葛布を貼るのは、前川が提案した。

金物は、銀座の鍛冶屋で「大井」という店が担当した。松屋の隣辺りにあつた。この店は空襲で焼けてしまったのではないか。

ドイツ製のラジエーターは、レーモンド事務所に出入りしていたテーテンスに探してもらった。

(5) 建物の造作について

◇1 玄関

玄関には、靴を履くときに腰をかけるため、棚板が一枚通っていた。靴箱がないのは、玄関に靴箱は置かない⁹⁾という考えがあつたからだつた。

玄関前の袖壁は、当初は、部屋の中から来客の顔が確認できるように、大きく開いていた。その後、金属製の目隠しをつけた。また、後にこの大谷石には蔦がはっていた。

玄関ドアの金物は、イギリスのエール社製。

◇2 女中部屋（創建当初の図面では「寝室其の参」）

創建当初の図面では板の間だが、施工の時に、お手伝いさんは畳のほうがいいだろうということになり畳を敷くことにした。畳敷きにするかどうかを特に重要視した覚えは崎谷氏にはないとのことである。

また、図面上にある掃き出し窓も施工の時に変更したらしい。¹⁰⁾

◇3 書斎（創建当初の図面では「寝室其の弐」）

来客のための寝室として考えていたため、クローゼットのなかに洗面台を設けた。

◇4 便所（西側）

来客用の便所として考えていた。モザイクタイルの色は前川が決めた。壁も床も真っ黒にした。便器は東洋陶器製の真っ白¹¹⁾なので、かなり印象的な便所であつた。

◇5 居間（サロン）

壁は漆喰とし、天井まで塗り上げた。昭和17年頃はまだプラスターは少なかった。

階段下の台所へのドアは当初からアーチ型。階段の関係からそのようにした。

北側の建具は、デザインの関係で内側から障子、雨戸、ガラス戸という処理をした。雨戸の戸袋を目立つところにつくりたくなかったのだが、防犯のために、やはり雨戸は必要だろうという結論だったので現在のような納まりとなった。

居間のドアの参考にしたものは、シャルロット・ペリアン¹²⁾の山小屋計画案の中にあつた「ス

イングドア」である。また、前述の「等々力飯箸邸」も参考にしている。

◇6 2階（創建当初の図面では「製図室」）

2階南側の造り付けの棚は、飾り棚と書棚として考えていた。西側のクローゼットは物入れが必要だろうと思ってつけた。

西側につくった屋根裏スペースは、建築中に美代氏（当時はまだ結婚していない）から「収納場所として使えるようにしてほしい」との希望があったので、物置として考えていた。しかし、当時は「延床面積100平方メートル」の関係で、床板を張る、扉をつけるといった部屋としての整備はできなかったのではないかと¹³⁾思っている。確実な時期は不明であるが、結婚後につけたのではないかと¹³⁾思っている。

また、天井裏への点検口は当初からある。

◇7 寝室（創建当初の図面では「寝室其の壱」）

自分が普段使用する寝室として考えていたと思う。西側の書斎と左右対称になっている。

◇8 浴室

便所と同じく、浴室のモザイクタイルの色も前川が¹⁴⁾決めた。

脱衣室がなかったので、少し変わった作りだったのではないかと¹⁴⁾思っている。

この建物の衛生陶器などの設備は、「西原衛生工業所」が探してくれた。創建当初の図面に使用する衛生陶器の型番号が入っているが、工業製品を使用する時に型番号を入れるということを崎谷氏はレーモンドのところで学んだという。

◇9 台所（創建当初の図面では「厨房」）

勝手口の小扉付扉をダッチドアという。丸善で売っていたオランダの建築のディテール集に、載っていたので採用した。扉の上部分だけでも開くと通気がよいのではと思った。

台所と居間の食卓を結ぶ小窓は、前川がどうしても付けて欲しいということ¹⁵⁾でつけた。自分はいらないと思っている。

(6) 増改築について

昭和31年8月に大規模な増改築を行っているが、崎谷氏は担当していない。

5 住まい方に関する聞き取り調査——親族・前川事務所所員からの聞き取り

前川ご夫妻には子どもがいないため、この建物に実際に住んでいた方からの聞き取り調査は不可能であった。

今回聞き取り調査を行ったのは、ときどき遊びに行った記憶のある弟の前川春雄氏ご一家の前川たか氏（前川春雄氏夫人・大正6年生まれ）・前川紘一氏（前川春雄氏長男・昭和16年生まれ）・前川悠二氏（前川春雄氏次男・昭和26年生まれ）である。前川春雄氏ご一家からの聞き取

りは(A)と記述する。

また、小学生の頃に1か月くらい泊まりに行った記憶があり、その後もよく遊びに行っていたという三浦雅子氏（前川美代氏姪・昭和14年生まれ）からもお話をうかがった。以下(B)と記述する。

前川國男邸が事務所として使われていた頃の様子は、前川事務所 OB の方々からうかがうことができた。

- ・雨宮亮平氏（前川事務所所属1951～1970）
- ・鬼頭梓氏（同1950～1964）
- ・河原一郎氏（同1947～1960）
- ・小崎嘉明氏（同1950～1964）
- ・奥平耕造氏（同1954～1970）

たてもの園へおいでいただき、直接お話をうかがったのは以下の方である。

- ・田中清雄氏（前川事務所所属1948～現在） 株式会社前川建築設計事務所 所長
- ・吉川清氏（同1942～1965）
- ・窪田経男氏（同1942～1984）

以下、前川事務所 OB の方々からの聞き取りは(C)と記述する。

(1) 親族から見た自邸を建てる経緯(A)

独身であった昭和17年頃に、何故自宅を建てることにしたのか、前川から直接聞いたことはない。しかし、本郷に両親の自宅があったので両親と住む為でなく、一人で住む為だった。

品川区上大崎に土地を買ったのは、当時分譲地として募集があったからではないかと思う。

その土地には、櫻の木が3本あり、前川はそれを気に入ったと言っていた。

前川から春雄氏のもとに「自宅を建てたので見にこないか」との連絡が昭和17年の秋（創建年）にあり、みんなで見に行った。まだ赤ん坊だった紘一氏を連れて見に行ったので、昭和17年であることは間違いない。

(2) 独身時代の生活の様子(A)

当時はお手伝いさんを一人住み込みで雇っていた。しばらくして、娘も同居するようになり、3人で住んでいた。お手伝いさん親子は前川が結婚するまでいた。

親子は玄関脇の女中部屋で暮らしていた。

どの部屋をどのように使っていたかなどはほとんど判らない。

(3) 事務所時代の様子(C)

1945年（昭和20）の東京大空襲で銀座の事務所が焼けた為、この年の5月に自邸に事務所を

移した。事務所として活用したのは、1945年（昭和20）から1954年（昭和29）までの9年間である。

1945年（昭和20）8月19日に美代夫と結婚をしたあとは、前川夫妻の新居として寝室のみがプライベートなスペースとなった。

居間を製図室として使用した。製図台を向かい合わせに並べて置いた。その他に2階にも4台ほど製図台を置いた。入口のスイングドアは外してあって、入ってすぐのところに九十九さんという事務の方がいた。

居間の照明は当時「イサム・ノグチ」ではなかったと思うが、具体的には記憶がない。2階には部屋の照明は無く、それぞれの製図台の所に蛇腹式のスタンドライトを置いて仕事をした。

書斎は当時応接室として使用し、タイプライターとソファベッドが備えてあった。

所員の食事は弁当や外食のことが多く、台所は美代夫人が前川の食事を作る為に使っていた。夫妻は居間隅のテーブルで食事をした。

就業時間は9時から5時で、土曜は昼まで。自宅なのでなるべく残業はしないよう控えたが、コンペ等の時期は残ることもあった。徹夜をすると書斎で寝た。

お手伝いさんを雇ったのは1950年（昭和24年）頃ではないかと思う。

事務所時代は、動物を飼ってはいなかった。

事務所時代は、部屋の中に絵を掛けていなかった。

1954年（昭和29年）ミドビルが完成したため、8月に事務所を自宅から移した。

(4) 昭和29年以降の自邸での生活の様子

◇1 玄関まわり

- ・新聞受けを庭の入口付近に設置していたが、毎朝、寝間着で外へ出なければならなかったので、失敗したと言っていた。新たに新築した際には、これを教訓に家の中から取れるようにしたという。新聞は5紙くらいとっていた。(B)

◇2 女中部屋

- ・事務所から自宅に戻して暫くはお手伝いさんを頼まなかった。再び雇ったのは昭和40年位からだったように思う。女中部屋はそれまで空いていて物置のように使っていた。(A)
- ・女中部屋には、足踏みミシンや電気掃除機などを置いていた。アイロン台も普段はここにあった。(B)

◇3 書斎

- ・図面（8949）のソファベッドは、この部屋に置いてあった。(B)
- ・出入りに近い所に電話があった。床の方に切り替えスイッチがついていた。来客はこの部屋で寝泊まりした。(B)

◇4 便所（西側）

- ・来客はこちらの便所を使用した。(A)

◇5 居間（サロン）

- ・照明はイサム・ノグチのものだった。また、布地が深緑色の肘掛け椅子は、イタリア製のもの。(C)
- ・居間には比較的早くからカラーテレビが置いてあった。(A)
- ・応接テーブルのたばこ盆の上に来客用のピース缶がいつも置いてあったが、自分は茶色で細くて長い葉巻を吸っていた。(B)
- ・ミロやピカソや、棟方志功の絵（弘前市民会館の緞帳に使用したもの）が壁に掛けてあった。一部は現在でも前川事務所に保存されている。(C)
- ・置時計は自分で集めたものではなくて、仕事などでもらったものを使っていた。(C)
- ・前川はとても音楽が好きで、居間の階段を下りたところにオーディオセットを置き、よくレコードを聴いていた。レコードはいろいろなジャンルのものを集めていた。(A・B・C)

◇6 2階

- ・2階には、集めた家具や普段使わないものが置いてあった。(B)
- ・屋根裏も、使わない家具などを置いていたが、印象に残っているものでは、アコーディオンがあった。昔はやったときに前川が弾いていたという。(B)

◇7 寝室

- ・寝室には、ツインのベットを置いていた。前川はベットサイドでは、山田電気社製のZライトを使用していた。必ず寝る前に本を読んでいた。(B)

◇8 浴室

- ・シャワーはついていたが、あまり使った覚えがない。シャワーカーテンがついていなかったたので、水が撥ねるはずであるが、床がびしょびしょになってしまうことはなかった。(B)
- ・バスタブの外で身体を洗うことはなかった。バスタブを出るところには足をふくマットが置いてあり、使い終わったあとにこのマットをラジエターの上に置いて乾かした。(B)
- ・前川は、お風呂は朝に入っていた。(B)
- ・前川は床屋で、美代夫人は、浴室の洗面台で頭を洗っていた。(B)
- ・昭和31年の増改築で浴室も手を入れたが、壁の色は茶色になった。(B)

◇9 台所

- ・奥のボイラーの熱源は石炭だったが、ここでゴミも燃やしていた。(B)
- ・台所と食卓の間の小窓に電話を置いていた。(B)
- ・美代夫人は料理が好きで色々を作っていた。お酒は食事に合わせて前川が自分で選んでいた。(B)
- ・八角形の珈琲沸かしがあり、よくコーヒーを飲んでいた。若いときはブラックで飲んでしたが、歳をとってからはミルクと半々で飲むようになった。(B)

◇10 庭まわり

- ・庭の手入れは、熱心にやるほうではなく、植木なども延びるままになっていた。地面は芝生で、よく夫妻でゴルフの練習をしていた。(B)

(5) その他の思い出

- ・家に冷房が入ってからは、軽井沢の別荘へ行かなくなった。(A)
- ・犬は最初から室内で飼っていた。あまり躰けが良いほうではなかった。一度に3匹飼っていたこともあった。名前は、「プチ」「クロ」「まるちゃん」など。犬の毛が部屋のあちこちについていた。夫妻ともそういう事には無頓着だった。(B)

(6) 部屋の呼び方について(B)

◇居間 (サロン)

たいてい「サロン」と呼んでいた。「居間」と呼んでいたこともあるが、「リビング」と呼んでいるのを一度も聞いたことはない(今回たてもの園では、この聞き取りをもとに、「居間(サロン)」と表記することとした)。

◇台所

「台所」または「キッチン」と呼んでいた。

◇浴室

たいてい「バスルーム」と呼んでいた。

◇寝室 (創建当初の図面では「寝室其の壱」)

「寝室」と呼んでいた。

◇書斎 (創建当初の図面では「寝室其の弐」)

「書斎」と呼んでいた。

◇2階

2階、中2階、上、など。

◇女中部屋 (創建当初の図面では「寝室其の参」)

「女中部屋」と呼んでいた。

(7) 昭和31年の大規模な増改築について(C)

このときは、土台の補強、南側上部にブレースを入れる、南側丸柱から角柱に取り替える、台所の増築、浴室の改修、車庫¹⁹⁾の設置などを行った。

また、室内で犬を飼っていたので、利便を考慮し、居間の床面をPタイルに貼り替えた。

(8) 前川國男邸解体について(C)

軽井沢へ持っていくときの解体工事は、清水建設が行った。解体工事の監理は崎谷氏が担当した。

6 展示年代設定について

前川國男邸の建築工事・展示施工にあたり「どの年代に復元するか」という決定が必要であった。前項で述べたように、前川國男邸は、創建当初の図面と建築工事の施工に相違点が見られ、また昭和31年には大規模な増改築がされている。たてもの園、財団法人文化財建造物保存技術協会、前川事務所の間で議論を重ねた結果、創建当初ではなく、しかも増改築以前、つまり「昭和30年頃」に設定した。理由は、創建当初を知る人はほとんどいないが昭和30年頃の様子は聞き取りが可能であったこと、「延床面積100平方メートル」の規制を表現するにあたって、台所等が増築される以前が望ましいことなどが挙げられる。

増改築以後の前川國男邸を知っている人は前川事務所の方々を中心に多く、また、前川國男邸の写真は、増改築以後のものしか現在に残っていないため、「南側外観にブレースが入る前の前川國男邸を実際に見てみたい」という意見が多かった。実際、南側外観にブレースが入った状態が前川國男邸の本来の姿と思っている方も多いようである。

また、造園の設計監理は、前川事務所が行った。たてもの園内の敷地にあった樹木を生かしつつ、当時にできるだけ近い状態を復元した。

大きな違いは、北側玄関へのアプローチの途中にある白樺である。この白樺は、もともとこの敷地のこの位置に移植されていたものである。玄関へのアプローチを考えると邪魔な位置に立っているが、議論の末、そのまま生かすこととした。前川は、建物を作るときに敷地に生えている樹木を極力伐らないように心掛けていたからこのような結論に達したのである。

7 復元工事・内部展示に使用した資料

今回の前川國男邸の復元にあたっては、建築工事、内部展示ともに以下の資料を参考にした。

ア 前川事務所所蔵「前川國男邸」図面類 表1

表1は、前川事務所所蔵している前川國男邸に関する図面一式である。

まず、昭和15年10月1日作成の「百塔会」と入っている図面4点は、経緯は不明だが、後に資料として作成されたい。

図面の整理番号の8601～8605は前川國男邸前担当である浜口ミホ氏の書いたものかもしれないが、確証はない。

以下、図面番号8606以降の図面は、8647あたりまで、担当の崎谷氏によるものと思われる。

前川國男邸に関する一考察

表1 前川事務所蔵「前川國男邸」図面類

図面整理及び備考は財団法人文化財建造物保存技術協会による

番号	図面作製年月日	図 面 名	縮尺	備 考
	昭和15年10月1日	配置図、平面図	1/50	百塔会の記入がある
	昭和15年10月1日	二階平面図、立面図、断面図	1/50	〃
	昭和15年10月1日	矩計詳細図	1/50	〃
	昭和15年10月1日	矩計詳細図	1/50	〃
8606	昭和16年3月24日	一階平面図	1/100	第1回設計案カ
8607	昭和16年3月24日	二階平面図	1/100	〃
8608	昭和16年3月24日	居間、食堂、ギャラリー展開図	1/100	〃
8609	昭和16年3月26日	立面図（東側、南側）	1/100	〃
8610	昭和16年3月26日	立面図（北側、西側）	1/100	〃
8611	昭和16年5月28日	平面図、立面図、断面図	1/50	実施設計図（案）カ
8612	昭和 年 月 日	構造図、矩計図	1/20 1/100	〃 （昭和16年8月2日訂正 二階及び小屋組変更の記入有り）
8613	昭和16年5月29日	平面詳細図（一階）	1/20	実施設計図（案）カ
8614	昭和16年5月29日	平面詳細図（二階）	1/20	〃
8615	昭和16年7月15日	案内図、平面・立面・断面図	1/100	確認申請用図面カ
8616	昭和16年7月18日	案内図、平面・立面・断面図	1/100	同上図面の訂正
8616	昭和16年10月27日	詳細矩計図	1/20	実施設計図
8617	昭和16年10月29日	二階廻り詳細図	1/20	〃
8618	昭和16年11月5日	南側立面詳細図	1/20	〃
8619 8639	昭和16年12月19日	一階平面図 台所詳細図	1/50 1/20	〃 〃
8622	昭和17年2月28日	南側テラス一居間境	現寸	〃
8623	昭和17年2月28日	南側テラス一居間境	現寸	〃
8624	昭和17年2月28日	北側一階窓	現寸	〃
8625	昭和17年2月28日	北側二階窓	現寸	〃
8626	昭和17年2月28日	一階北側居間出入口部	現寸	実施設計図
8627	昭和17年2月28日	一階北側居間出入口部	現寸	〃
8628	昭和17年2月28日	二階北側出入口部	現寸	〃

番号	図面作製年月日	図 面 名	縮尺	備 考
8629	昭和17年 2 月28日	南側出入口詳細	1/20	〃
	昭和 年 月 日	台所、浴室展開図	1/20	〃
8630	昭和17年 2 月19日	一階平面図	1/50	実施設計図訂正
8631	昭和17年 2 月21日	居間断面図	1/20	〃
8632	昭和17年 2 月19日	居間断面図 其の二	1/50	〃
8633	昭和17年 3 月 6 日	寝室窓	現寸	実施設計図
8634	昭和16年 3 月 6 日	寝室窓 其の二	現寸	〃
8635	昭和17年 3 月 6 日	巾木、出入口・扉枠	現寸	〃
8636	昭和17年 3 月12日	玄関扉枠	現寸	〃
8637	昭和17年 3 月12日	玄関窓	現寸	〃
8638	昭和17年 3 月12日	玄関廻り詳細	1/20	実施設計図の変更
8640	昭和17年 3 月20日	浴室廻り詳細	1/20	〃
8643	昭和17年 5 月18日	寝室衣裳戸棚詳細図	1/20	実施設計図
8644	昭和17年 5 月18日	居間出入口詳細	1/20	実施設計図の変更
8647	昭和17年 8 月26日	敷石石割図	1/20	実施設計図
8648	昭和17年11月21日	家具（食卓）図	1/10	〃
8649	昭和17年11月14日	家具（寝台）図	1/10	〃
8649	昭和18年 2 月15日	家具（食卓）図	1/10	〃
8649	昭和17年12月18日	庭園及び物置図	1/50	実施設計図（昭和18年 7 月12日 表門、裏門書き込みの記入あり）
8650	昭和18年 1 月14日	建具表	1/50	実施設計図
8651	昭和18年 7 月27日	家具（茶卓、寝室ダンス）	1/10	〃
29501	昭和31年 8 月17日	平面図	1/50	改築工事設計図 （昭和31年 8 月24日 記入事項 変更の記載有り）
29502	昭和31年 8 月17日	立面、断面図	1/20 1/50	改築工事設計図 （昭和31年 8 月24日 記入事項 変更の記載有り）
29503	昭和31年 9 月 7 日	平面図	1/50	改築工事設計図 （昭和31年 9 月18日、9 月28日 記入事項変更の記載有り）
29504	昭和31年 9 月26日	立面図、展開図	1/50	改築工事設計図
29505	昭和31年 9 月26日	台所家具詳細	1/20	〃

表2 村井修氏撮影「前川國男邸」写真

番号	撮 影 箇 所	備 考
1	北面（正面）外観 北より	テラスの鉄平石貼り及び玄関脇目隠し塀は後補の施行
2	南面（背面）外観 南東より	テラス鉄平石及びテラス内角柱、補強用筋違いは昭和31年の施行
3	南面居間～テラス出入口 南より	同上
4	居間内部 二階書斎より居間南面を見る	床材のPタイルは昭和31年 照明器具はこの写真に基づいて復元
5	〃 居間東面を見る	居間テーブル上の照明器具は、残存していたため、修理して再用
6	〃 居間南面隅を見る	
7	〃 居間北面を見る	
8	〃 同上詳細	

崎谷氏は、前述のとおり、昭和17年の秋に完成を見ないまま出征し、聞き取りにおいても家具の図面は書いていないということが判明している。

イ 村井修氏撮影「前川國男邸」写真（白黒） 8点 表2

「前川國男作品集 建築の方法」（美術出版社）に掲載されている。また、雑誌等で使用されるのはこの写真である。

増改築の後から昭和48年迄の間に撮影されている。撮影を意識して、部屋の中は整理されている。

ウ 前川家での私的な写真 白黒 57点（前川事務所所蔵・非公開）

カラー55点

前川事務所で保管されている昭和30年代から40年代にかけての前川家のプライベートな写真類。今回の内部展示は、主にこの写真を参考にした。

写真の内容は、前川夫妻の犬好きを表す愛犬のかわいらしいひとこまを撮ったものが多いが、ホームパーティなどで親しい人が集まったものなどもある。

エ 三浦雅子氏所蔵写真 白黒 6点（非公開）

美代夫人の姪である三浦雅子氏が小学生の頃に前川國男邸内で撮ってもらったもの。

オ 衛生工業協会制定「衛生陶器規格」 昭和13年 東洋陶器株式会社

東洋陶器株式会社 カatalog「鷺印衛生陶器 附属器具」 昭和14年
東陶機器株式会社所蔵製品の図面類

前述のとおり、前川國男邸の当初図面には、東洋陶器株式会社製品の型番号が記入されていた。その番号をもとに、現存する資料に照らし合わせて、衛生陶器の図面を新たに起こす作業が行われた。この作業は、東陶機器株式会社商品企画センターデザイン部に依頼した。

なお、図面中のすべての番号が、現存する資料の製品番号と一致した訳ではなかったため、不明のものは調査の上近いものを選択した。

実際の展示では予算の関係上、浴室と台所のみ復元した。書斎のクローゼットの洗面台と便所（西側）は新しい東陶機器株式会社の製品が入っている。

また、浴室にはシャワーがついていたという聞き取りだったが、壁面についていたのか、手に持てるタイプだったかなど詳細が不明だったこと、当時の東洋陶器株式会社のカatalog中に考えられる製品がなかったことなどから、今回は復元できなかった。

*今回製作した複製品と東洋陶器株式会社の型番号

<浴室>

浴槽（BH19）・水栓金具（TB50B）・石鹸受け（S6）

大便器（C100）・タンク（S100）・便座（CS100）・紙巻器（S20）

洗面器（L143）・水栓金具（T102）

<台所>

流し（SK16）・水栓金具（T30B）

洗濯流し（SK37）・水栓金具（T30B）

8 おわりに

最後に、復元された前川國男邸について簡単に述べてみたい。

まず外観は、前述のとおりもとの敷地に建っていたときは北側のみ道路に面し、南側は崖地となっていたが、たてもの園では、南側が主な動線となっているので、南側をよく見ることができる。写真なども、もとの敷地のときには撮れなかったようなアングルから撮ることができる。また、台風の日²⁰⁾に南側の雨戸をすべて閉めたのだが、雨戸一枚一枚に細やかな気遣いがされ、印象的な美しい姿であった。

北側から建物の中に入る。建物の大きさの割には玄関部分が小さく、靴が5足も並ぶといっぱいになってしまう。ドアが内開きになっていることも原因かと考えられる。また「家の象徴」のような格式ばった玄関を前川は意識的に避けたともいえるのではないかな。

そして上がってすぐに広がる居間の豊かな空間。時間や、四季に応じて変化する南側から入る光が部屋の印象をがらりと変えてくれる。深緑色の肘掛け椅子に座ってゆっくりと過ごすの

がいい。また、2階への階段の手すりに触れ、前川がかつてこの階段を上り下りしていたのかと考えるのも楽しい。

この建物の一番の見どころは居間であるが、各部屋の建具の注意深く彫り込まれた引き手やその場所に応じた工夫、心遣いもじっくり見ていただきたい。

本稿では、前川國男邸のごく一部を紹介するのみにとどまってしまったが、今後も調査を続けていきたいと考えている。

[註]

- 1) 1935～1978前川事務所所属
- 2) 『新建築住宅特集』1997年3月号の特別記事「前川國男邸（再建）」において、藤森照信氏が軽井沢に同行したのは前川紘一氏と書いているが、誤りと思われる。
- 3) 土浦亀城の最初の自邸は1931年竣工し土浦夫妻が数年住んだ後、友人に売却された。この建物は1945年に戦災で焼失してしまったとのこと（中村つね子氏からの聞き取りによる）。現在残されているのは2番目の自邸である。
- 4) 1939～1948 前川事務所所属
- 5) 現在の延床面積の考え方で計算すると、前川國男邸は108.67m²で、100平方メートルを超えている。調査不足のため詳細は不明であるが、当時の考え方による「床」の範囲によって、前川國男邸は100平方メートル以内と考えることができたのではないだろうか。
- 6) 前川の本郷の自宅は、敷地はそんなに大きくないが、日本家屋の2階建てだったという。崎谷氏による。
- 7) 土浦亀城氏設計 1936年竣工
- 8) 雑誌 『新建築住宅特集』1997年3月号の特別記事「前川國男邸（再建）」において、藤森照信氏は外壁に柿渋を使用したと書いているが、誤りと思われる。
- 9) 靴は、寝室のクローゼットの小さな引き出しに入れていたらしい。
- 10) 以上2点が女中部屋に関する図面と施工の相違点である。調査の結果このような結論となった。
- 11) 現：東陶機器株式会社
- 12) （1903～ ）フランスの家具デザイナー。コルビュジエのアトリエに所属。
- 13) 他にも結婚後に手を入れたと考えられる場所として台所の棚がある。創建当初の図面には収納棚となっている所に、結婚後は外国製のオープン付きガスレンジが置いてあった。
- 14) モザイクタイルの色についての記憶は崎谷氏もあいまいであったが、三浦雅子氏の聞き取りをもとに床の色は黒、壁は温かい感じのアイボリーに復元した。
- 15) 創建当初の図面では、壁になっている。
- 16) 現在使用しているものは今回新たに購入したもの。
- 17) 実物は前川事務所所蔵。現在展示している椅子は複製。
- 18) 現在展示中のものは前川事務所より寄贈された実物。
- 19) 写真1・2参照
- 20) 雑誌『婦人公論』1947年10月号の論文「明日の住宅——象徴と機械」より。『建築の前夜——前川國男文集』（1996年 而立書房）所収。



写真1 昭和40年頃の前川國男邸南側外観



写真2 たてもの園に復元された前川國男邸南側外観

A化粧材

番号	区分	材種	要 箇	構 造			成 部			材 質			補 足			木 材			備 考
				寸 法	員数	数量	材積	再 用	不 用	用 材	区 分	寸 法	員数	数	材積	材積	材積	入 区 分	
				巾 (cm)	厚 (cm)	長 (m)	単位				保存	巾 (cm)	厚 (cm)	長 (m)	単位	材積 (m ³)	材積 (m ³)	材積 (m ³)	等 一 (m ²)
1	側廻り柱	杉		12.1	12.1	3.030	本	24	0.044	1.0656	18	6	0	6	12.1	12.1	4.000	0.3516	大壁、真壁柱共
2	居間廻り柱	杉		12.1	12.1	4.540	〃	12	0.0665	0.7980	8	4	0	4	12.1	12.1	4.000	0.2344	〃
3	棟付ち柱	桧		24.2	24.2	4.800	〃	1	0.2811	0.2811	0	1	0	1	径 24.2	4.888		0.3373	〃
4	居間柱	杉	円柱	径	24.2	4.545	〃	2	0.2662	0.5324	2	0	0	0	0				〃
5	〃	〃	〃	径	24.2	2.424	〃	1	0.1420	0.1420	1	0	0	0	0				〃
6	二階柱	〃	〃	径	24.2	1.818	〃	1	0.1065	0.1065	1	0	0	0	0				〃
7	土台	桧		13.6	13.6	6.363	〃	2	0.1177	0.2354	1	1	0	1	13.6	13.6	3.900	0.1730	〃
8	〃	〃		13.6	13.6	3.636	〃	7	0.0673	0.4711	6	1	0	1	13.6	13.6	2.600	0.0577	〃
9	〃	〃		13.6	13.6	8.181	〃	2	0.1513	0.3026	2	0	0	0	0				〃
10	〃	〃		13.6	13.6	6.818	〃	1	0.1261	0.1261	1	0	0	0	0				〃
11	〃	〃		13.6	13.6	7.272	〃	1	0.1345	0.1345	1	0	0	0	0				〃
12	〃	〃		13.6	13.6	4.090	〃	1	0.0756	0.0756	1	0	0	0	0				〃
13	床板	桐	1・2階共	(9.7)	1.7	(2.70)	延m ²	89.9	1.5283	30%	70%	1%	69%	(9.7)	1.7	(2.70)		1.1426	
14	化粧裏板	桧		8.7	1.7	1.800	毎	160	0.0027	0.4320	0	160	5	155	8.7	1.7	1.800	0.4752	
15	面戸板	〃		8.3	1.0	0.320	〃	20	0.0003	0.0060	0	20	0	20	8.3	1.0	0.320	0.0066	
16	化粧垂木	松	野垂木とも	7.0	5.7	8.600	本	12	0.0343	0.4116	0	12	3	9	7.0	5.7	4.000	0.5760	
17	〃	〃	〃	7.0	5.7	2.000	〃	42	0.0080	0.3360	0	42	0	42	6.0	7.0	4.000	1.0080	
18	広小舞	杉		13.4	4.5	3.700	〃	3	0.0223	0.0669	2	1	0	1	13.4	4.5	3.700	0.0268	
19	〃	〃		13.4	4.5	2.600	〃	2	0.0157	0.0314	0	2	1	1	13.4	4.5	2.600	0.0377	
20	〃	〃		13.4	4.5	1.300	〃	1	0.0078	0.0078	0	1	0	1	13.4	4.5	1.300	0.0094	
21	登り広小舞	〃		13.4	4.5	4.500	〃	3	0.0060	0.0180	0	3	0	3	13.4	4.5	1.000	0.0216	
22	破風板	〃		13.4	4.5	4.500	〃	8	0.0271	0.2168	6	2	0	2	13.4	4.5	3.700	0.0223	
23	〃	〃		38.0	6.6	8.500	枚	4	0.2132	0.8528	4	0	0	0	38.0	6.6	2.500	0.0535	知木材
24	敷居	松	居間(南側)	15.8	4.5	6.350	〃	1	0.0451	0.0451	1	0	0	0	6.1	6.1	1.500	0.0627	〃
25	〃 (無目)	〃	〃	17.7	4.5	3.200	〃	1	0.0255	0.0255	1	0	0	0	7.5	1.5	2.900	0.0033	〃
26	〃	〃	居間(北側)	28.8	6.0	3.200	〃	2	0.0553	0.1106	2	0	0	0	2.5	2.5	3.200	0.0048	敷居端埋木材
27	〃	〃	〃	16.7	6.0	6.350	〃	1	0.0636	0.0636	1	0	0	0	2.5	0.6	2.400	0.0005	各版居共通
28	〃	杉	寝室(3押入)	12.0	4.5	1.828	〃	1	0.0099	0.0099	0	1	0	1	12.0	3.0	2.400	0.0103	
29	窓敷居	松	寝室(1)	33.8	7.5	3.636	〃	1	0.0922	0.0922	0	1	0	1	34.0	7.5	3.900	0.0995	
30	〃	〃	寝室(3)	33.8	3.0	2.424	〃	1	0.0246	0.0246	1	0	0	0	6.2	2.7	2.500	0.0042	〃
31	〃	〃	寝室(2)	33.8	7.5	3.636	〃	1	0.0922	0.0922	1	0	0	0	4.5	4.5	2.300	0.0056	〃
32	〃	〃	厨房	24.2	4.5	1.818	〃	1	0.0198	0.0198	1	0	0	0	0				
33	〃	〃	浴室	15.2	4.5	1.818	〃	1	0.0124	0.0124	1	0	0	0	0				
34	〃	〃	二階書斎	15.2	3.6	6.350	〃	1	0.0347	0.0347	0	1	0	1	9.1	9.1	0.390	0.0077	知木材
															20.0	9.1	6.400	0.1398	
35	付敷居	桧	寝室(2)	6.2	2.7	2.500	〃	1	0.0042	0.0042	1	0	0	0	0				
36	〃	〃	寝室(1)	6.2	2.7	2.500	〃	1	0.0042	0.0042	1	0	0	0	0				
37	〃	〃	居間(南側)	6.5	11.2	6.200	〃	1	0.0451	0.0451	1	0	0	0	0				
38	〃	〃	居間(北側)	3.0	11.2	6.200	〃	1	0.0208	0.0208	1	0	0	0	0				
39	中段敷居	松	居間(南側)	36.5	10.6	6.200	〃	1	0.2399	0.2399	1	0	0	0	0				

小計 9.0233
累計 4.8836 0.2308 2.8231 0.2358 1.5940

番 号	区 分	材 種	摘 要	寸			員 数 単 位	構 造			部 材			材 質			寸 法			補 足			材 入 区 分			備 考
				巾 (cm)		厚 (cm)		材 積 (㎡)	員 数	材 積 (㎡)	量 数	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	材 積 (㎡)	
				巾 (cm)	厚 (cm)																					
40	中段敷居	〃	寝室(1)	29.4	10.6	3.636	〃	1	0.1133	0.1133	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
41	〃	〃	寝室(2)	29.4	10.6	3.636	〃	1	0.1133	0.1133	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
42	〃	〃	浴室	15.2	4.5	1.818	本	1	0.0124	0.0124	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
43	杉	寝室(3)押入	12.0	4.5	1.828	〃	1	0.0099	0.0099	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
44	〃	松	二階書斎	15.2	3.6	6.350	〃	1	0.0347	0.0347	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
45	鴨居	〃	居間(南側)	21.2	5.5	6.350	〃	1	0.0740	0.0740	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	羽木材	
46	〃	〃	居間(北側)	27.6	4.5	3.200	〃	2	0.0397	0.0794	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	各町居修理材	
47	〃	〃	〃	20.5	4.5	6.350	〃	2	0.0586	0.1172	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
48	〃	〃	二階書斎	20.5	4.5	6.350	〃	1	0.0586	0.0586	0	1	0	0	1	0	1	19.5	4.5	6.400	本	1	0.0562	0.0674		
49	〃	〃	寝室(1)	33.8	4.5	3.636	〃	1	0.0553	0.0553	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
50	〃	〃	寝室(3)	33.8	4.5	2.424	〃	1	0.0369	0.0369	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
51	〃	〃	寝室(2)	33.8	4.5	3.636	〃	1	0.0553	0.0553	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
52	〃	〃	厨房	24.2	4.5	1.818	〃	1	0.0198	0.0198	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
53	〃	〃	浴室	15.2	4.5	1.818	〃	1	0.0124	0.0124	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
54	窓枠(堅枠)	〃	居間(南側)	20.8	6.1	2.420	〃	2	0.0307	0.0614	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
55	〃	〃	〃	12.1	6.1	2.120	〃	2	0.0156	0.0312	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
56	〃	〃	居間(北側)	26.8	4.5	2.120	〃	2	0.0256	0.0512	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
57	〃	〃	〃	23.6	4.5	2.120	〃	2	0.0225	0.0450	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
58	〃	〃	〃	22.1	4.5	2.120	〃	2	0.0211	0.0422	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
59	〃	〃	〃	17.6	4.5	2.120	〃	2	0.0168	0.0336	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
60	〃	〃	二階書斎	10.6	4.5	1.820	〃	4	0.0087	0.0348	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
61	〃	〃	〃	15.2	4.5	1.820	〃	3	0.0124	0.0372	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
62	〃	〃	〃	7.6	4.5	1.820	〃	1	0.0062	0.0062	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
63	〃	〃	〃	31.8	4.5	1.820	〃	2	0.0260	0.0520	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	羽木材	
64	〃	〃	寝室(1.2)	12.1	4.5	1.820	〃	6	0.0099	0.0594	6	0	0	0	0	0	0	4.0	2.000	本	1	0.0048	0.0058	0.0058		
65	〃	〃	〃	13.9	4.5	1.820	〃	2	0.0114	0.0228	2	0	0	0	0	0	0	12.0	4.5	1.800	〃	1	0.0097	0.0116	0.0116	
66	〃	〃	〃	22.0	4.5	1.820	〃	2	0.0180	0.0360	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
67	〃	〃	〃	20.3	4.5	1.820	〃	2	0.0166	0.0332	1	1	0	0	1	0	1	20.8	4.0	2.000	本	1	0.0166	0.0199	0.0199	
68	〃	〃	寝室(3)	15.2	4.5	1.210	〃	2	0.0083	0.0166	0	2	0	0	2	0	2	18.0	10.0	1.700	〃	2	0.0306	0.0734	0.0734	
69	〃	〃	厨房	15.2	4.5	0.900	〃	2	0.0062	0.0124	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
70	〃	〃	浴室	15.2	4.5	1.520	〃	2	0.0104	0.0208	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
71	〃	〃	便所	15.2	4.5	1.210	〃	2	0.0083	0.0166	2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
72	〃	〃	玄関	17.9	6.1	2.120	〃	2	0.0231	0.0462	0	2	0	2	0	2	0	17.0	4.0	2.200	本	1	0.0150	0.0180	0.0180	下段は修理材
73	〃	〃	玄関窓	13.8	6.1	0.848	〃	2	0.0071	0.0142	0	2	0	2	0	2	0	17.0	5.0	2.200	〃	1	0.0187	0.0224	0.0224	
74	〃	〃	居間出入口	17.6	4.5	1.820	〃	4	0.0144	0.0576	3	1	0	0	2	0	2	7.5	7.5	0.720	〃	2	0.0041	0.0098	0.0098	
75	〃	〃	各室出入口	17.9	4.5	1.820	〃	12	0.0147	0.1764	12	0	0	0	0	0	6.8	4.5	1.900	〃	1	0.0145	0.0174	0.0174		
76	窓枠(縦枠)	〃	玄関(上枠)	17.9	6.1	1.060	〃	1	0.0116	0.0116	1	0	0	0	0	0	7.0	4.5	2.000	〃	1	0.0063	0.0076	0.0076	羽木材	
77	〃	〃	玄関窓	13.8	4.5	0.636	〃	2	0.0039	0.0078	0	2	0	2	0	2	8.5	8.5	0.820	〃	1	0.0059	0.0071	0.0071	〃	
78	〃	〃	便所	15.2	4.5	0.788	〃	2	0.0054	0.0108	0	2	0	2	0	2	18.0	10.0	0.700	〃	2	0.0126	0.0302	0.0302	0.3246 0.0000 	

前川國男邸に関する一考察

番号	区分	材種	摘	要	寸			構		成部			材		木			材	考			
					巾 (cm)	厚 (cm)	長 (m)	員数 単位	数量 単材積 (㎡)	材積 (㎡)	再用材	不 用材	区分 廃棄	巾 (cm)	厚 (cm)	長 (m)	員数 単位			数	量 材積 (㎡)	積 上小節 (㎡)
79	窓枠(桧枠)	松	居間出入口		17.6	4.5	1.520	本	2	0.0120	0.0240	2	0	0	0							
80	〃	〃	〃		17.6	4.5	0.820	〃	2	0.0065	0.0130	2	0	0	0	15.0	3.6	0.650		0.0084	桧木材	
81	〃	〃	各間出入口		17.6	4.5	0.820	〃	12	0.0065	0.0780	11	1	0	0	1	21.0	2.4	0.800			
82	居間棚板	桧			26.4	4.5	2.730	枚	1	0.0324	0.0324	1	0	0	0							
83	〃	〃			26.4	4.5	2.420	〃	1	0.0287	0.0287	1	0	0	0							
84	居間棚板	桧			36.0	4.5	1.150	枚	1	0.0186	0.0186	1	0	0	0							
85	同上腕木	松			4.5	4.5	0.194	本	11	0.0004	0.0044	11	0	0	0							
86	同上横棧	〃			4.5	6.1	2.420	〃	2	0.0066	0.0132	2	0	0	0							
87	〃	〃			4.5	6.1	1.150	〃	1	0.0032	0.0032	1	0	0	0							
88	寝室棚板	桧			30.3	4.5	3.500	枚	2	0.0477	0.0954	2	0	0	0							
89	同上腕木	松			4.5	4.5	0.240	本	10	0.0005	0.0050	10	0	0	0							
90	同上横棧	〃			4.5	6.1	3.500	〃	2	0.0096	0.0192	2	0	0	0							
91	〃	〃			4.5	6.1	1.150	〃	1	0.0032	0.0032	1	0	0	0							
92	戸当り	〃			12.0	4.5	0.530	〃	8	0.0029	0.0232	7	1	0	0	1	12.0	4.5	0.530		0.0035	
93	〃	〃			12.0	4.5	1.130	〃	2	0.0061	0.0122	1	1	0	0	1	12.0	4.5	1.130		0.0061	
94	小彫板	桧			12.5	1.8	1.110	枚	8	0.0025	0.0200	7	1	0	0	1	12.5	1.8	1.110		0.0025	
95	〃	〃			12.5	1.8	0.530	〃	2	0.0012	0.0024	1	1	0	0	1	12.5	1.8	0.530		0.0012	
96	巾木	松	居間廻り		11.0	1.8		延m	8.48	0.0168	60%	40%	0	40%	8.5	4.5	1.500		0.0057	0.0068	0.0068	
97	〃	〃	寝室(1、2)		11.0	1.8		〃	22.4	0.0444	70%	30%	0	30%	8.5	4.5	3.600		0.0138	0.0331	0.0331	
98	〃	〃	厨房		11.0	1.8		〃	6.36	0.0126	50%	50%	0	50%	8.5	4.5	2.200		0.0084	0.0202	0.0202	
99	〃	〃	玄関廻り		11.0	1.8		〃	2.12	0.0042	0	100%	0	100%	8.5	4.5	0.900		0.0034	0.0041	0.0041	
100	〃	〃	廊下		11.0	1.8		〃	1.82	0.0036	0	100%	0	100%	8.5	4.5	0.900		0.0034	0.0041	0.0041	
101	〃	〃	二階書斎		11.0	1.8		〃	8.79	0.0174	100%	0	0	0	0	6.0	3.6	1.500		0.0032	0.0077	0.0077
102	戸袋下棧	〃			6.1	4.5	1.300	本	7	0.0036	0.0252	6	1	0	0	1	6.1	4.5	1.300		0.0036	0.0043
103	〃底板	〃			9.1	1.8	2.000	枚	7	0.0033	0.0231	6	1	0	0	1	9.1	1.8	2.000		0.0033	0.0036
104	〃壁板	桧			8.7	1.7	2.000	〃	80	0.0030	0.2400	3	77	0	77	8.7	1.7	2.000		0.0030	0.2541	
105	〃側板	松			15.2	4.2	2.000	〃	7	0.0128	0.0896	3	3	0	3	14.1	3.6	1.900		0.0096	0.0317	
106	〃側板	〃			31.6	4.2	2.000	〃	7	0.0265	0.1855	7	0	0	0							
107	二階目隠し板	〃			15.2	2.7	3.640	枚	1	0.0149	0.0149	1	0	0	0							
108	外壁	桧			(8.7)	1.7	(2.00)	延㎡	89.6	1.5232	0	89.6	0	89.6	(8.7)	1.7	(2.00)		89.6	延㎡	1.6755	
109	外壁水切り板	杉			10.6	2.7		〃	42.0	0.1202	50%	50%	0	50%	11.1	2.7	3.900		1	0.0117	0.0140	
110	外壁見切り棧	〃			4.5	4.5	4.000	本	16	0.0081	0.1296	0	16	0	16	4.5	4.5	4.000		16	0.0081	0.1555
111	天井見切り縁	桧	浴室		4.5	9.5	1.800	〃	2	0.0077	0.0154	0	2	0	2	4.5	9.5	1.800		2	0.0077	0.0185
112	天井廻り縁	〃	〃		4.5	9.5	2.700	〃	2	0.0115	0.0230	0	2	0	2	4.5	9.5	2.700		2	0.0115	0.0276
113	天井板	〃	〃		10.5	1.8	0.910	枚	57	0.0017	0.0969	0	57	0	57	10.5	1.8	0.910		57	0.0017	0.1066
114	天井平縁	〃	〃		9.5	9.0	1.800	本	2	0.0154	0.0308	0	2	0	2	9.5	9.0	1.800		2	0.0154	0.0370
115	天井板	〃	ベランダ		(8.7)	1.7	(1.70)	延㎡	5.2	0.0884	0	5.2	0	5.2	(8.7)	1.7	(1.70)		5.2	延㎡	0.0972	
116	書斎床板	〃	踏み込み部		18.2	2.4	3.000	枚	2	0.0131	0.0262	0	2	0	2	18.2	2.4	3.000		2	0.0131	0.0288
117	書斎面戸板	松			4.5	6.1	0.330	本	17	0.0009	0.0153	0	17	0	17	4.5	6.1	0.330		17	0.0009	0.0184
118	書斎床板受け	〃			9.1	9.1	0.330	〃	17	0.0027	0.0459	0	17	0	17	9.1	9.1	0.330		17	0.0027	0.0551
119	天井見切り縁	杉	二階書斎		4.5	4.5	4.000	〃	20	0.0081	0.1620	0	20	0	20	4.5	4.5	4.000		20	0.0081	0.1944

番号	区分	材種	摘要	寸			槽			成			部			材			寸			補			足					材			入	区		分	備考
				厚		長	員数 単位	員数 単位	材積 (㎡)	再 用材	不 用材		不 用材		厚	中	法	員数 単位	数	材積 (㎡)	材積 (㎡)	量	無節 (㎡)	上小節 (㎡)	小節 (㎡)	一 等 (㎡)											
				(cm)	(cm)						保存	廃棄	保存	廃棄													(cm)	(cm)	(m)								
120	通風孔	杉		4.5	25.0	0.900	本	18	0.0101	0.1818	0	18	0	18	0	18	4.5	25.0	0.900	本	18	0.0101	0.2182		0.2182												
121	〃	〃		5.0	1.0	0.750	〃	30	0.0004	0.0120	0	30	0	30	0	30	5.0	1.0	0.750	〃	30	0.0004	0.0132		0.0132												
122	二階化粧板	松		6.1	18.2	3.300	〃	15	0.0366	0.5490	15	0	0	0	0	0	6.1	18.2	3.300	〃	15	0.0366	0.0132		0.0132												
123	化粧梁	〃		12.1	24.2	6.350	〃	4	0.1859	0.7436	4	0	0	0	0	0	12.1	24.2	6.350	〃	4	0.1859	0.2430		0.2430												
124	〃	〃		12.1	21.2	6.350	〃	1	0.1629	0.1629	1	0	0	0	0	0	12.1	21.2	6.350	〃	1	0.1629	0.0012		0.0012												
125	書斎棚天板	ラワン		48.5	3.0	5.100	枚	1	0.0742	0.0742	1	0	0	0	0	0	48.5	3.0	5.100	枚	1	0.0742	0.0012		0.0012												
126	書斎棚側板	〃		48.5	3.0	0.850	〃	2	0.0124	0.0248	2	0	0	0	0	0	48.5	3.0	0.850	〃	2	0.0124	0.0012		0.0012												
127	書斎棚底板	〃		36.4	3.0	5.100	〃	1	0.0557	0.0557	1	0	0	0	0	0	36.4	3.0	5.100	〃	1	0.0557	0.0012		0.0012												
128	階段側板	松		48.5	3.0	0.850	〃	5	0.0124	0.0620	5	0	0	0	0	0	48.5	3.0	0.850	〃	5	0.0124	0.0012		0.0012												
129	階段踏面板	〃		24.2	4.5	3.900	〃	2	0.0425	0.0850	2	0	0	0	0	0	24.2	4.5	3.900	〃	2	0.0425	0.0012		0.0012												
130	階段踏面板	〃		21.2	3.6	0.800	〃	12	0.0061	0.0732	12	0	0	0	0	0	21.2	3.6	0.800	〃	12	0.0061	0.0012		0.0012												
131	階段手摺柱	〃		9.1	9.1	0.750	〃	5	0.0062	0.0310	5	0	0	0	0	0	9.1	9.1	0.750	〃	5	0.0062	0.0012		0.0012												
132	階段手摺柱	〃		12.1	7.5	3.900	〃	1	0.0354	0.0354	1	0	0	0	0	0	12.1	7.5	3.900	〃	1	0.0354	0.0012		0.0012												
133	風呂のぞき框	杉		2.1	3.9	1.500	本	2	0.0012	0.0024	0	2	0	2	0	2	2.1	3.9	1.500	本	2	0.0012	0.0029		0.0029												
134	床下収納口框	〃		13.5	4.0	1.300	〃	2	0.0070	0.0140	0	2	0	2	0	2	13.5	4.0	1.300	〃	1	0.0070	0.0084		0.0084												
135	洗面戸	桧		30.0	1.5	1.000	枚	32	0.0045	0.1440	0	32	0	32	0	32	30.0	1.5	1.000	枚	32	0.0045	0.1056		0.1056												
136	勝手口枠	〃		15.2	7.5	1.950	本	2	0.0222	0.0444	0	2	0	2	0	2	15.2	7.5	1.950	本	2	0.0222	0.0682		0.0682												
137	〃	〃		15.2	7.5	0.850	〃	1	0.0097	0.0097	0	1	0	1	0	1	15.2	7.5	0.850	〃	1	0.0097	0.0146		0.0146												
138	見切り板	杉		3.6	1.5	3.600	〃	18	0.0019	0.0342	6	12	0	12	0	12	4.0	1.5	4.000	〃	12	0.0024	0.0346		0.0346												
計										16.4426																											

前川國男邸に関する一考察

B 野物材

番号	区分	材種	摘要	構			成			部			材			補			足			木			材	考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
				巾	厚	法	員数	数量	材積	再	不	用	材	区	分	法	員数	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積			材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積	材積

6.4572 0.7200 4.6572 1.0800 0.0000

10.1345

小計

累計

[illegible]

前川國男邸に関する一考察

参考資料 2 前川國男 略年表

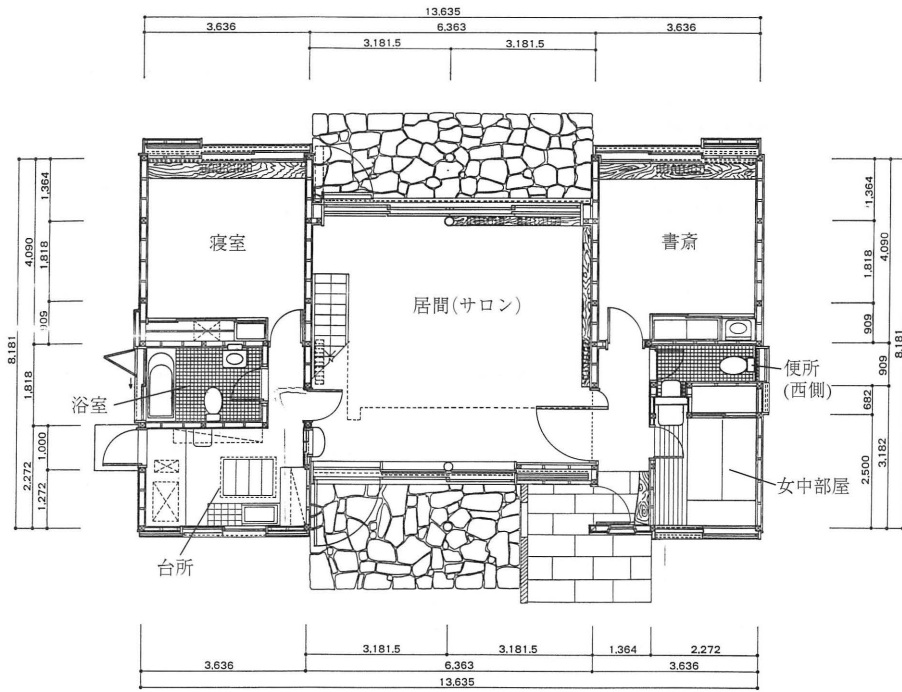
西暦	年号	年齢	事 項	主 な 作 品	前川國男邸関係事項
1905	明治38	0	新潟市に生まれる		新潟市学校町通
1909	明治42	4	東京市本郷に移る		東京市牛込区左内坂町→本郷区本郷5丁目
1918	大正7	13	東京府立第一中学校入学		「→本郷区本郷6丁目35番地
1922	大正11	17	第一高等学校理科甲類に入学		
1925	大正14	20	東京帝国大学工学部建築学科に入学		
1928	昭和3	23	東京帝国大学工学部建築学科卒業 シベリア鉄道経由でパリに向かう	卒業設計「放送局」	叔父の佐藤尚武の家に同居
			ル・コルビュジェのアトリエに入所		
1930	昭和5	25	2年間の留学を終えて帰国		本郷区本郷6丁目35番地に戻る
			レーモンド建築設計事務所に入所		
1931	昭和6	26	東京帝室博物館コンペに応募・落選 「負ければ賊軍」を書く	東京帝室博物館コンペ応募募案 明治製菓銀座店コンペ応募募案	
1935	昭和10	30	レーモンド建築設計事務所を退所 前川國男建築設計事務所を設立		
1936	昭和11	31		森永キャンディーストア銀座売店 千葉邸 守屋邸 ひのもと会館コンペ応募募案	
				パリ万国博覧会日本館指名コンペ応募募案	
1938	昭和13	33		笠間邸	本郷の自宅から、九段の野々宮アパートに移る
1940	昭和15	35		岸記念体育会館	
1942	昭和17	37		前川國男邸	自邸が竣工する
1945	昭和20	40	東京大空襲で銀座の事務所が焼失		
					事務所を自邸に移す
			三浦美代（29歳）と結婚		
1946	昭和21	41	工場生産木造パネル式組立住宅「プレモ ス」の生産を開始	プレモス74型 森永売店	
1947	昭和23	42	新宿に「紀伊国屋書店」（木造）が竣工 MID(Mayekawa Institute of Design)を 組織する	紀伊国屋書店 古垣邸	
1948	昭和23	43		平和記念広島カトリック聖堂コンペ案 慶応大学付属病院	
1951	昭和26	46	事務所を株式会社に改組する ロンドンで開催された GIAM 総会でル・ コルビュジェと再開する	プレモス72型 北村邸	
1952	昭和27	47		日本相互銀行本店	
1954	昭和29	49		神奈川県立図書館・音楽堂	ミドビルが竣工し、自邸より事務所を移転する
1955	昭和30	50	ル・コルビュジェが「国立西洋美術館」の 設計のために来日。坂倉準三、吉阪隆正と ともに協力する	国際文化会館 西原衛生工業所本社	
1956	昭和31	51		福島県教育会館	自邸の大規模な改修を行う
1958	昭和33	53		晴海高層アパート ブリュッセル万博日本館	
1959	昭和34	54	日本建築家協会会長に就任	世田谷区民会館	
1960	昭和35	55		京都會館 学習院大学校舎	
1961	昭和36	56		東京文化会館	
1962	昭和37	57		神奈川県青少年センター 岡山県総合文化センター	
1963	昭和38	58	オーギュスト・ペレー賞受賞		
1964	昭和39	59		紀伊国屋ビルディング	
1965	昭和40	60	朝日賞受賞	蛇の目 ミシン工業本社ビル	
1966	昭和41	61		埼玉会館	
1967	昭和42	62			
1968	昭和43	63	第一回日本建築学会大賞受賞		
1970	昭和45	65		日本万国博覧会自動車・鉄鋼館	
1971	昭和46	66		埼玉県立博物館	
1972	昭和47	67	毎日芸術院賞受賞		
1973	昭和48	68			自邸を解体・榎井沢の別荘に格納
1974	昭和49	69	日本芸術院賞受賞	東京海上ビルディング本館	RC 造の自邸を新築
1975	昭和50	70		東京都美術館	
1976	昭和51	71		弘前市立博物館	
1977	昭和52	72		熊本県立美術館	
		73		山梨県立美術館	
1979	昭和54	74		国立西洋美術館新館 福岡市美術館	
1980	昭和55	75		埼玉県立自然史博物館	
				宮城県立美術館	
1983	昭和58	78		弘前市斎場	
1985	昭和60	80	妻・美代胃ガンのため永眠	新潟市美術館	
1986	昭和61	81	心不全のため永眠	国立国会図書館新館	

参考文献

『建築文化』1989年8月号 『前川國男作品集—建築の方法』1990年 美術出版社 『SD』1994年4月号 『建築の前夜』1996年 而立書房

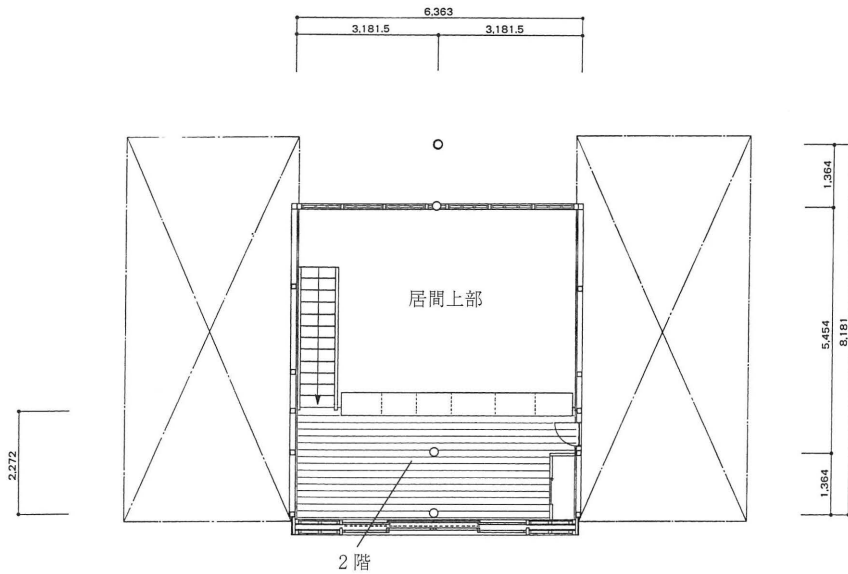
※建物は竣工年

参考資料 3 前川國男邸 平面図



1 階 平面図

○



2 階 平面図